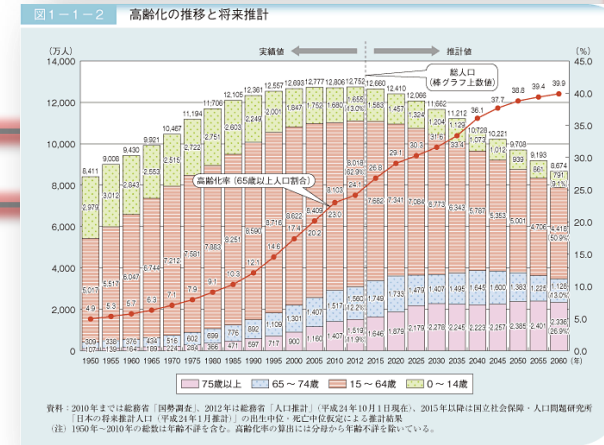
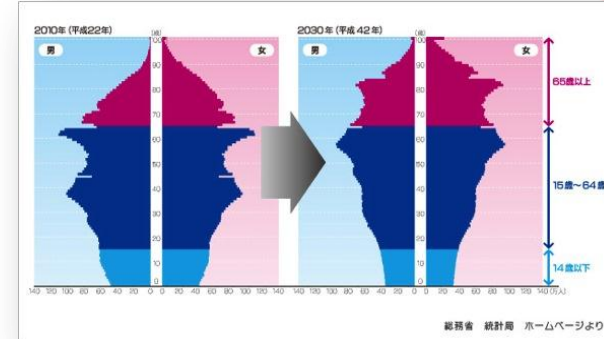




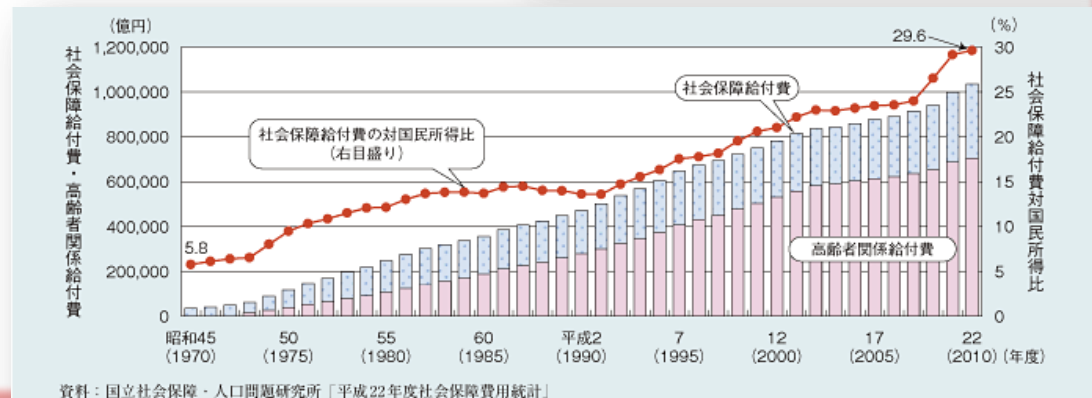
# 【2030年問題】

**戦**後に生まれた団塊の世代が**高齢化**し、2025年頃から75歳以上の後期高齢者世代に突入し始める。日本の人口構成も、図1のようにピラミッドの上層部分が大きくなり、2030年には、3人に1人が65歳以上の高齢者と言われるほど、高齢者率の上昇が予想されている。



# 【限りある財源】

**人**口減による**税収減**、高齢化による**社会保障費増**。これまで「あれも、これも」と様々な政策を実施していたが、これから「あれか、これか」の選択を迫られる時代となる。





## 【様々な対立】

**選**択の過程で、様々な**対立**が生じてくる。



高齢者 × 若者



都市 × 山間部

## 【対話が苦手】



**大**事なことと分かってても、対立を伴うような**対話**は苦手である。多様な問題を自分のこととして捉え、参加することが大事だと思っけていてもハードルが高い。

今後起こりうる地域の課題をシミュレーションし、何が起きるかを**体感**しながら、選択の過程で生じる対立を**対話**により乗り越える体験を「ゲーミフィケーション（＝ゲーム化）」することで、これらの現状（隘路）を解決し、様々な世代、様々な地域、多様な立場が一体となったまちづくりを行う“場”を創り上げる。

リアルに“体感”

“体験”を共有

参加の“ハードル”を下げる

対話型シミュレーションゲーム

SIN熊本2030

新たなつながり ~Lead The Next Society~

# 【ゲーム説明】

高齢化により社会保障に必要な予算が増え続けるなか、何の予算を落とし、何の予算を残していくか。そして、残された予算・事業でいかに幸せな街を作っていくか。

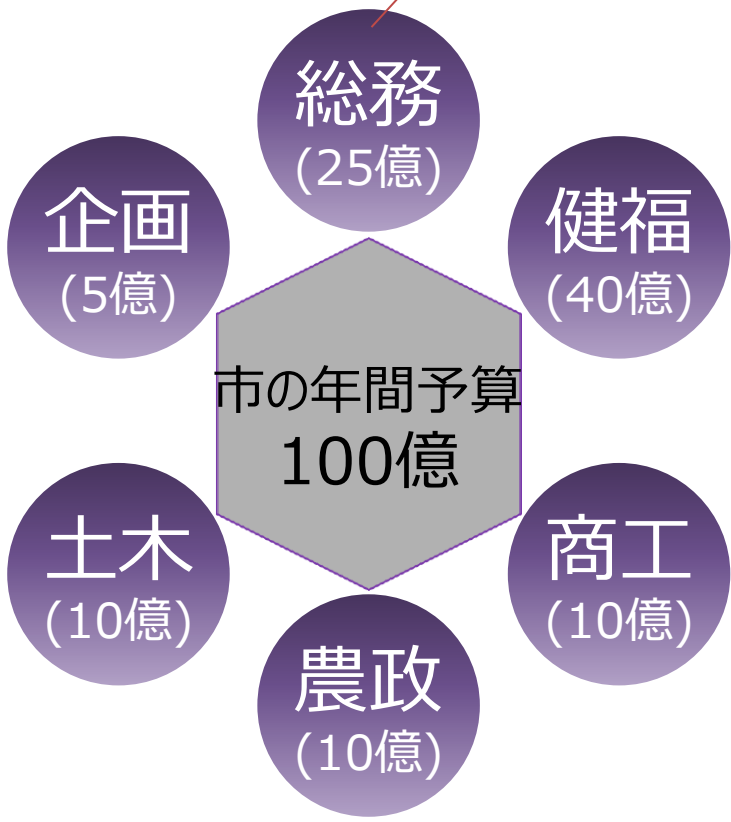
プレイヤーは6人1組で架空都市〇〇市の部長に就任し、2030年までの5年ごとに迫りくる課題に対して、他の部長と対話し、「市としての判断」を下していく。





# ①各部長には予算と1枚1億円規模の事業カードが配られる。

(うち公債費15億円)



## 【事業カード例】

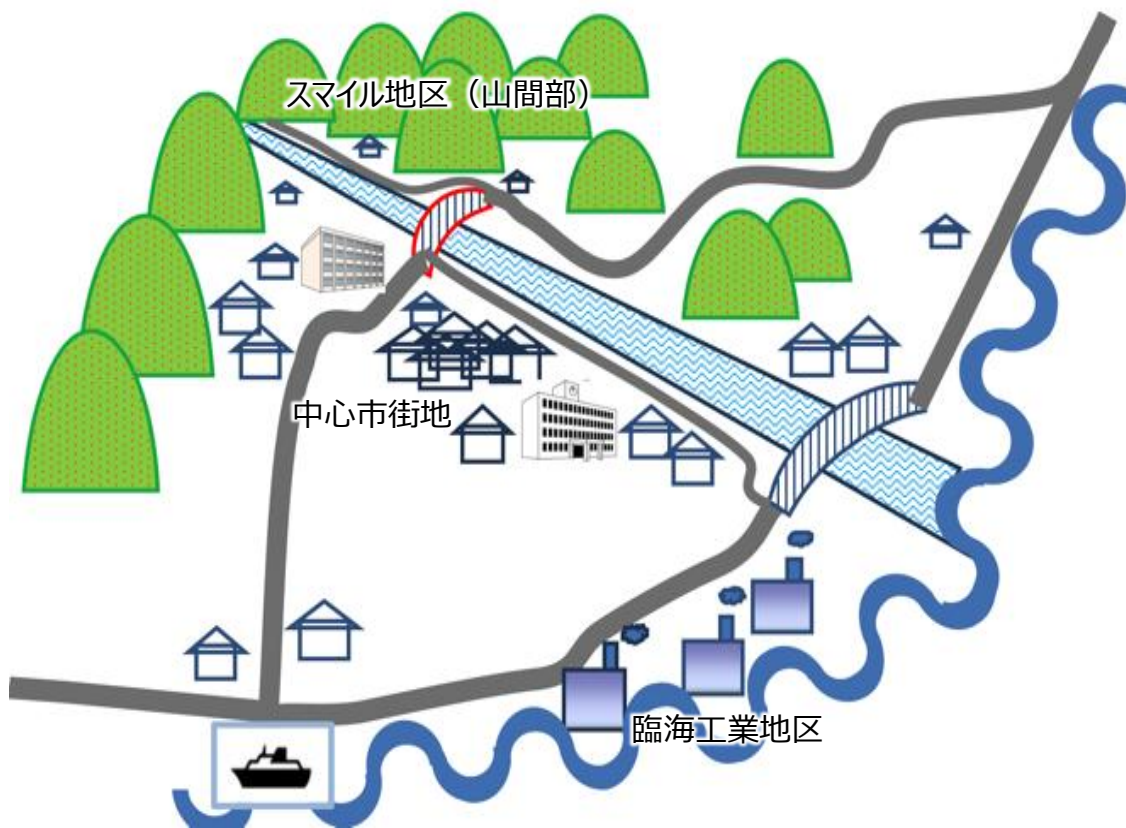
- 企画部：IT行政の推進事業、まちづくり（地域づくり）補助金
- 健福部：子ども医療費補助事業、健康づくり支援事業
- 商工部：企業誘致補助金、ゆるキャラ活動委託費、販路拡大のイベント事業
- 農政部：有害鳥獣対策事業、農業担い手育成事業、新品種開発の補助事業
- 土木部：歩道バリアフリー事業、防災対策事業、重点港湾整備事業
- 総務部：（※裁量的経費はなく、部長会議の調整役を担ってもらう設定。）

② 迫りくる時間制限の中で、限りある財源をどう扱うか。どんな選択を行い、どの事業を廃止するか。どういった影響が生じて、どう対応するか。事業カードを具体的にどう運用するか。

Q. 中山間に通じる橋の更新時期が到来。  
当該道路は集落につながる大事な生命線であり要望も大きい。  
補修費は1億円。  
さて、どうする？



A. 補修する    B. 補修しない



③武器となるのは各部 5 ～ 40 億円の予算と、1 枚 1 億円の事業カード、そしてチームの知識と知恵と協力と、あとは決断をくだす勇氣。

刻々と進み続ける時計を前に、悠長な議論は出来ず、時代が進むにつれて事業カードは容赦なく減り続ける。

制限時間内に「市としての判断」及び「捻出元事業の決定」、「それに伴う影響への対応策の説明」ができれば、住民の反発を招き、その費用負担は赤字債（借金）で対応することとし、そのペナルティが総額 5 億円に達した場合は、財政破綻（ゲームオーバー）となる。逃げる事はもう出来ない。基本的に、歳入を増やす手だてが無く、ひたすら事業を落とし続けるのみ。終盤、絶望すら感じることもある厳しい状況の中、ふと気づくものがある。さて、あなたの市は、どんな選択をして、どんな街を目指していきますか？



# 未来を2つに分けてゲームに組み込む

## すでに起こった未来

### 前提条件

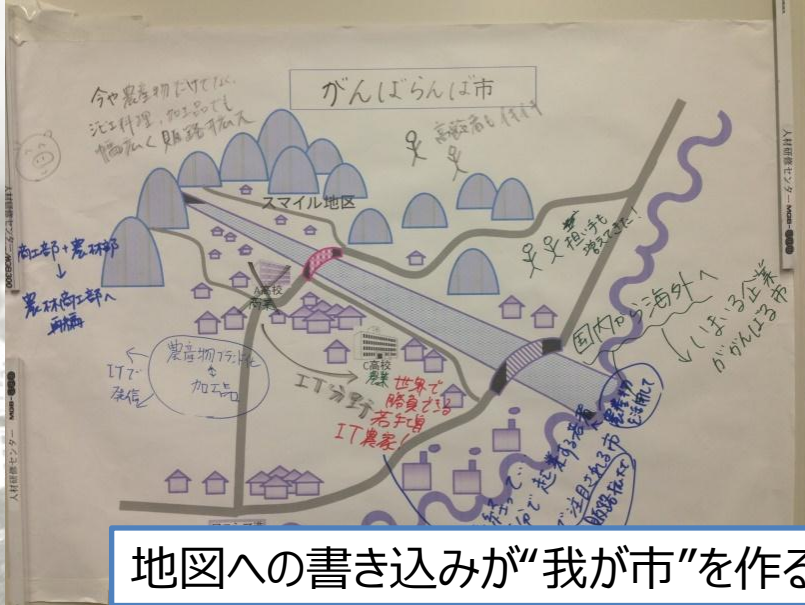
- 各部の予算はほとんどが義務的経費であり、  
裁量のある経費は各部 2 ~ 3 億円（事業カードの枚数）のみ。
- 人口減少により労働力人口・消費者人口も減少し、  
税金は 5 年ごとに 1 億円ずつ下がる。
- 反対に、高齢化の進行により、  
社会保障経費は 5 年ごとに 1 億円ずつ増加する。

## これから創る未来

### 選択肢

- 突きつけられた課題に対して、  
他の部長と対話し、「市としての判断」を決めなければならない。
- 減り続ける財源に対応するため、  
事業カードのどれかを廃止して、財源を確保しなければならない。
- 部長は自らの所管する事業カードの具体的な運用方針（カードの詳細な内容）を決めることができる。

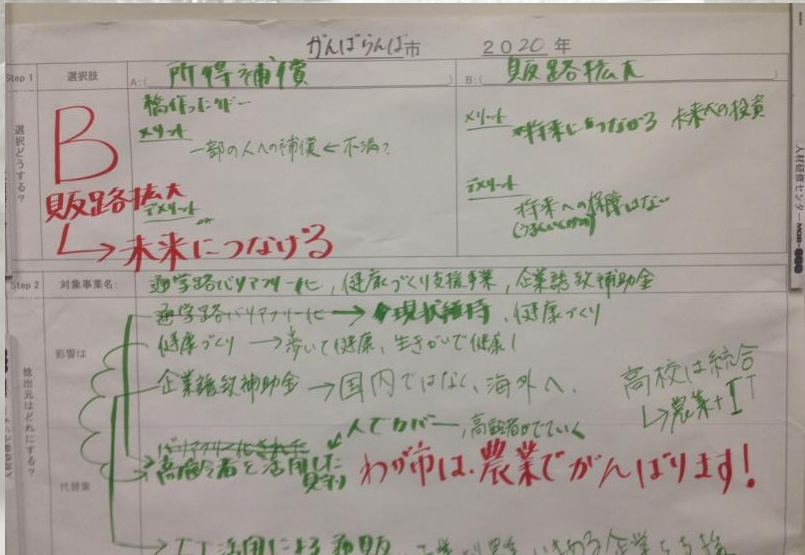
# 【開催例】第3回九州まちづくりOM“九州交流カフェ” in 熊本



地図への書き込みが“我が市”を作る



異なる自治体の職員が一緒にまちづくりを考える



議論の内容を模造紙に記録し見える化

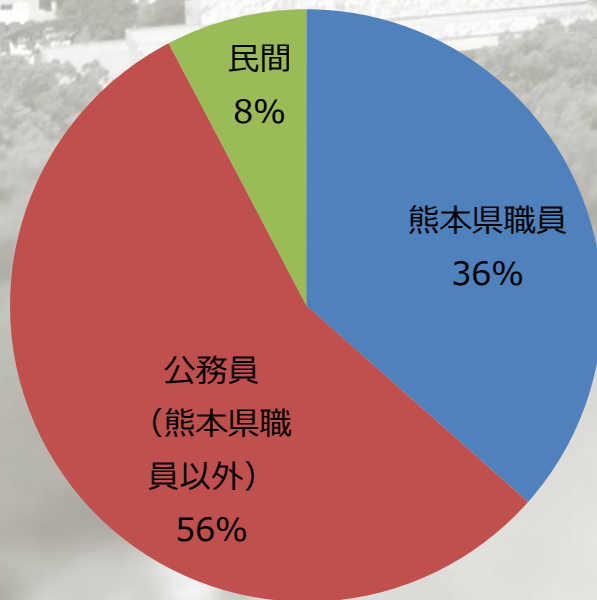


打ち解けるための“おやつ”と“遊び心”

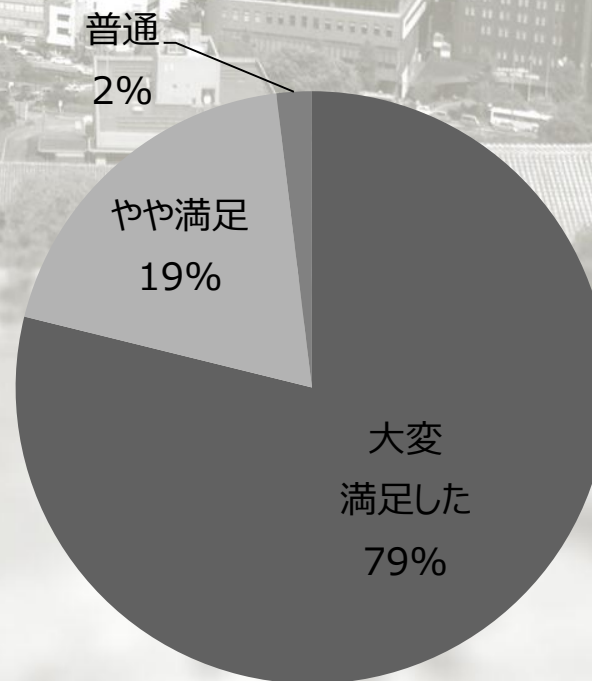
# 参加後の感想（満足度）

区分	回答者数	5	4	3	2	1	平均点
		大変満足した	やや満足	普通	やや不満	不満	
1 熊本県職員	19	11	8	0	0	0	4.58
2 公務員（熊本県職員以外）	29	27	2	0	0	0	4.93
3 民間	4	3	0	1	0	0	4.50
<b>全体</b>	<b>52</b>	<b>41</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>4.77</b>

参加者比率



満足度（全体）









# 対話の広がり

- 平成25年 8月 熊本県庁の自主活動支援制度を活用して制作開始。5ヵ月間で開発。
- 平成26年 1月 熊本県庁で県職員・県内市町村職員向けに第1回開催（32名参加）
- 平成26年 2月 上益城地域振興局（管内市町村勉強会）で開催（10名参加）
- 平成26年 8月 九州オフサイトミーティングin熊本で開催（50名参加）
- 平成26年 8月 諫早市役所（長崎）で開催（35参加）
- 平成26年10月 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（10組織から24名参加）
- 平成26年11月 福岡市役所が体験会を開催（12名参加）
- 熊本の市民大学マチナカレッジで一般向け講座として開催（30名参加）
- 平成27年 1月 熊本市役所で開催（18名参加）、人吉市役所で開催（10名参加）
- 平成27年 2月 諫早市役所で年齢別・役職別のチーム編成で開催（12名参加）
- 平成27年 4月 福岡市役所の新人研修の1コマとして簡易版を実施（300名参加）
- 熊本県で庁内外の希望者向け体験会を開催（6組織から20名参加）
- 平成27年 6月 水俣市役所で開催（11名参加）
- 平成27年 7月 福岡県庁×春日市で共同開催（29名参加）
- 大津町(熊本)で青年会議所主催のカスタマイズ版を開催（20名参加）
- 平成27年 8月 「SIM熊本2030体験会IN関東」を開催（44名参加）
- 「財政出前講座×SIM」のコラボ版を延岡市で開催（50名参加）

H26.8.9 SIM熊本2030 IN 九州OM



H27.8.1 SIM体験会 IN 関東





# 「くまもとSMILEネット」

「県職員のミッションは県民を笑顔にすること」  
「まずは、自分たち県職員が笑顔になること  
で、県民に笑顔（元気）を届ける存在に  
なろう！」  
「そのために、自分たちで1歩を踏み出そう！」  
と平成22年9月に職員有志で結成した自主  
活動グループ。

現在45人程度のメンバーが参加。

定期的なダイアログ（対話）を通じて、年始  
のハイタッチ、退職予定者とのワールドカフェ  
（暗黙知の伝承）、採用PRムービー制作な  
ど様々な場づくり、プロジェクトを展開中。

